（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）（日刊）日曜日及祭日の翌日休刊　明治四十二年八月二十日（金曜日）　第百九十二號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●絶海の樂天地（一）
（欝陵島民の生活）

漁業權の事に就き島民を代表して上京せる片岡同島郵便所長の談話に依り日本海中の一孤島欝陵島の狀態の知り得たれば左に之を記るさん

島中に於ける物産は往時はケヤキ、モチ等の木材を主とし日人の集る者亦木材伐採の爲めなりしが卅二年露政府が同島木材採伐權を得たればとの理由の下に元山領事より邦人の立退を命ぜられたるも交通不便なる孤島の事とて取締り付かず追へば隨て集り來るの有樣なりしが現在の定住者は邦人六百七十人にして出漁者は舊六月より八月頃迄にて一旦引返し更に電報にて秋漁の都合を聞き集り來る韓人は七千許もあり烏賊漁最も盛んにして同漁期となれば日韓人の老若男女總出の有樣にて夕刻より朝にかけ其捕獲に從事す

氣候は京城邊と大差なけれど雪多し生活は極めて呑氣にして交通は皆帆船に依るが故に風工合惡しき時は半ケ年位便船なきことあり半歲前の回向院の勝負に打ち興ずる程なれば以て一斑を知るべく同民は概して淳朴、賣春婦なく賭博なく盜賊なければ夜も戶を鎖さず居民少くして他と交通稀れなれば全島自ら一家の觀をなし患難相救ひ新來者には打寄りて便宜を計り遣るなど和氣靄然たるものなり唯何等の娛樂機關もなき爲め飲酒の癖は忽ち增長し易く酒量一二合のものも直ちに一升位の酒豪となるは受合なり（續く）

●蒜の効用に就て

風土か食物か又未知の原因に由るか明かならざるも韓國には他邦に比し十二指腸患者及結核病患者少きは特異の現象なるがかの韓人が蒜を常用する如きは大に之等病毒を防過する効あるに非るか曾て故樫村博士が蒜エキスの効力大なるを唱へしを考ふれば自ら一貫せる理由なしといふべからずと

●登記證明と金融影響

從來登記證明の澁滯に就き長きは半年以上も要し短きも二ケ月を超ると鮮からず從ふて請願者の迷惑は言語同斷にして既に此程も商業會議所を通じ迅速取扱方を其筋に要求せしとの事なるが今其の內容を聞くに漢城府に於ても事務繁劇なるが上人員不足にて殆ど寸隙も有せざる底の有樣にて實際の調査と民意に副はず從ふて理事廳に於ても急遽證明の要求に應ずるは至難との事なれども實際請願者の苦衷は殆ど想像の他にして爲めに證明請求中他の債權者より差押に遭ひ若しくは貸借約束の返濟期限を通り越したる曉に證明手續の了し得らるゝ等の滑稽なるこもありといふ

中山大納言

第廿九席　桃川燕玉演

すると此今野定右衛門と云ふのが頑固野暮な仁で、何の京都の青公卿輩と只馬鹿にしきつて居るから　定「ナニ松平壹岐守殿御通行の道筋、先刻から此方聲を掛けるに、其方に於て道を避けざるのみならず、何だ無禮な事を申す、何の爲に目を光らして居る耳を二つ附けて置くとは何だ、兎や角申すに於ては打放すぞ」と言つたら御公卿樣の供をして居る靑侍だから、驚いて狐鼠々々と逃げるだらうと思ふ、所が其威嚇は些つとも利かない、眞影流の大先生池西太宮「ナニ、彼れ此れ申すと打放す、イヤ不屆な事を申す奴汝のやうな犬士に斬らるゝやうな者は一人もない、斬れるものなら斬つて見ろ大白痴奴　今「此奴不屆な事を申す奴其儀ならば勘辨罷成らぬ」と刀の柄に手を掛けたのは、斬る氣もございますまいが嚇かす爲め斯うしたら、大概謝罪だらうと鯉口を三寸寛げるのを見ると、池西太宮躍掛つて「無禮者奴ッと定右衛門の利腕に手が掛つたかと思ふと引擔いで、地響き打たして大地に投付けた、起上らうとする所を伜の小彌太が飛込んで來て矢庭に取つて押へ高手小手に引括つた、サア驚いた、外一同の者が「是は亂暴、うれ狼籍ぞ」一同に打つて蒐らうとする、池西太宮今大路民部少輔之れを見ると、中山殿の御供方に向つて「狼籍を働く奴、片端から斬り捨てゝ大事ない」と大勢の眞正中に躍り込んだが、手玉に取つて、バッタバタ／＼投げ飛ばす、強いの強よくないの、壹岐守の御家來東西へ叩き散らされ、這々の体で一散に逃げてしまふ、斯んな強い御公卿に出會したのは始めてだ、今野定右衛門も繩尻取つて引立つて來て、軈て箱根の御關所へ乘込み　池「御關所當番　番「ハイ　池「是は松平壹岐守家來、以の外不都合な奴ゆへ取押へたが、今度關東下向の御道筋である、故に歸洛致すまで當關所に預けるから確と預つて置かつしやい」御關所役人驚いた、預物に事を缺いて士などを預つた日には厄介で仕樣がない　番「何分にも迷惑を致します、先達て紀州家から鐵砲を御預り申し甚だ迷惑を致して居る、今又士などを御預けに相成つては甚だ當惑を致す、どうか御免を蒙りたい　池「當關所は何者が御預り申す、御身達は一体何人の家來だ　番「吾々は相州小田原の城主大久保加賀守家來……　池「當關所は加賀守が御預りか　番「左樣、主人加賀守御預り吾々共主人申付にて當御關所を相固めます　池「れ前の主人大久保加賀守は、關東の代官德川將軍の家來　番「ヘイ　池「德川將軍は恐れ多くも一天萬乘の君の家來だ、普天の下率土の濱王土王民たらざるはなし　番「ヘイ　池「當箱根の關は詰り一天萬乘の君御要害としての御關所だ、其關を預つて居る貴樣達　番「ヘイ　池「朝廷の御家臣中山大納言殿から預けると云ふに預かられぬと云ふことはあるまい、早々預からつしやい　番「ヘイ誠にはや恐入り奉ります……どう致したもの……○「左樣さ、預からなかつたら何を言ひ出すか知れない、仕方がないから預つて置かう　番「然らば御預り申す事に仕ります　池「さうなうては叶はぬ、預書を出さつしやい　池「一、士一人　番「ヘイ　池「但し年齡四十五歲　番「ヘイ　池「色黑く鼻低く、髯多く衣類は小紋絆天右儲に御預り申候處實證也、右預證に引換相渡すべく候爲後日依て如件、寛政五年二月、中山大納言殿御家中池西太宮殿、大久保加賀守家來……何と言はつしやる、鹽田瀬左衛門か、宜し／＼鹽田瀬左衛門、關印をして出さつしやい「ハ、ッ」今野定右衛門め驚いてしまつた、ポロリ／＼涙を流しどうなる事かと思つて居る所へ、壹岐守の供頭高橋甚五右衛門と云ふ人が飛ぶが如くに驅け付け　甚「扨申上げますイヤどうも此者甚だ無禮を働き御立腹の段重々恐入り奉つります、殿樣にも御勘辨下し置かれまするやう寛大の御沙汰を願上げまする、どうか御勘辨相成るやう、甚だ失禮ではございまするが是をどうか……」瞞かし込んで百兩と云ふ金を池西太宮の袂へポカリと拋り込んだ、之を出せばナニ直ぐ助けて呉れる喧しく言のは畢竟是を摑みたいから喧しく言のだ、何より是が一番効驗が有と袂へ拋込と池西太宮「コレ、貴公は何と言つしやる　甚「高橋甚五右衛門と申します　池「身共の袂へ何だ是は　甚「ハイ……　池「金だ、何と思つて士の袂へ斯樣な穢らはしい物を拋込んだ、德川家の士は斯樣な不正なものを袂へ投込まれて、喜んで着服する橫着者があるかは知らぬが、朝廷の御家臣たる中山大納言御身内には、斯樣なる物を袂に投込まれて喜んで着服をする、左樣な後暗い者は一人もないわ、以の外の事、持つて歸れ」唐突高橋甚五右衛門の前へ拋出した。サア甚五右衛門驚いた、大概是なら結着と思つたのが、百兩の金を取らないやうぢや此奴どうも治まらない、どうしたら宜いかと狼狽へ出した。



本年の農作

京城新報

二百十日を經過せざる今日に於ては本年農作の豐凶は素より豫言する能はざるは勿論也、頃者東電の報する所に依れば祖國の米作は現下の狀態にては平年以上なりと云ふ、初夏に於ける霖雨にて多少水害を受けたりしかを氣遣ひたるに今此快報に接する所より見れば、初夏の霖雨は左程の害を與へざりしのみならず、其の後の照込により平年作以上を豫想するに至りしは甚だ以て喜ぶべき事なりとす、而して清國農作も諸種の報道によりて案ずるに南清地方の或一部を除くの外は先づ以て平作たることを豫想するを得べし、印度に至りては本年は殊に氣候順當にして頗る豐作なりと、東洋に於ける重なる米作國の概況斯の如し

飜て韓國本年の米作如何と顧れば余輩は遺憾ながら平年作を豫想する能はず、初夏の候に於ては旱魃甚だしく農民の痛心一方ならず、爲に韓皇深く憂慮せられて詔勅の喚發となれりき、然るに其後雨露頻にありて旱魃の憂は忽ちに除かれ農民蘇生の思ひあり、滿れば缺くる世諺に漏れず降雨連續して多きに過ぎ、是が爲に河川は氾濫し稻田は恰も河海の如くなれる所尠少ならず、平安南道の成川江東兩郡の如きは其害殊に甚だしく人畜の溺死さへ多く、流失家屋は千餘に及び、浸水覆砂田畑二千五百町步に達せりと云ふ、是に依りて見るも如何に水害の多大なりしかを知るに足らむ、其他慶尙江原咸鏡等の水害を擧げ來れば被害の高は頗る甚大なるべし加之頃者夜盜蟲發生し被害甚だしとの報道來る、韓國の米作現狀は斯の如くなれば前途如何に良好に經過するも到底平年作を見る能はざるは今より豫言するに憚らざる也。

韓國本年の雨量は作物に對し決して多きに過ぎたりとは云ふ可らず、寧ろ順當の雨と云はざる可らず、然るに平年作を見る能はざるは全く河川荒廢して氾濫せるが爲也、若し夫れ河川を修築して堤防を堅確にせば此水害は受けざる也、天は順當に雨を降せりと雖も、人間の設備完からざる爲に之を善受する能はざりし也、農者が粒々辛苦して培栽し來れる稻苗は順當なる降雨の爲に流出すると云ふに至りては實際忍ぶ可らざる也、之を思へば韓國に於て最も急速に施設すべきは河川の修築水利の便なりとす之を爲さゞるが爲に豐作なるべきものを凶作とするに至る、如何に天の惠みあるも之を受くるの設備をなさゞれば惠みに與かるを得ず、農政の局に當り居るものは何事を措きても先づ以て河川の修理をなさゞる可らず、農本位を以て建てる所の韓國にして農作振はずとせば何を以てか能く立國の礎を造らむ、要するに河川の修理をなし水利の便を計るは韓國開發の最速急務也、是れ何人も知る平凡なる言議なれども眞の緊急問題たる也。

北京電報

▲駐清公使の會見

伊集院公使は十八日清國外務部と二回の會見を遂げ議する所ありたり（十九日）

▲鐵道と米國出資

粤漢鐵道川漢鐵道借款を六百万磅とし其中川漢鐵道の半額を米國にて引受くるに決せり（同上）

東京電報

▲陸軍將校滿韓派出

陸軍兵器廠長少將押上森藏同廠員砲兵少佐尾寶徹の兩氏滿洲及韓國に派遣せられたり（十九日發）

▲二荒伯爵の逝去

故北白川宮殿下第五子二荒義之伯御年（廿一）腎臟炎にて昨夜逝去せらる（十九日發）

▲渡米實業團の出發

渡米實業家一行五十二名今朝新橋を發し午後三時橫濱解纜のミンソタ號にて萬歲聲裡に出發せり見送人無量數千人（十九日）

▲韓皇太子の旅程

韓太子は本日山形に入られ同地に一泊さる（十九日）

▲韓儲近況御尋問

我皇后陛下、皇太子殿下には電報を以て韓太子の近況を御尋ねあり韓太子より鄭重なる返電ありたり（同上）

雜報

●間島の現狀に就て（篠田事務官の直話）

統監府臨時間島派出所事務官總務課長篠田治策氏は間島問題に付其筋へ報告の爲め一昨日入京したるが本社員は三日月旅館に同氏を訪ひ間島問題に付大樣左の如き直話を得たり

△目下間島に在る清韓人の比較は

	四十年九月調	四十二年六月調	比較增
韓人	七七、〇三三	八二、九九九	五、九六六
清人	二三、四五六	二七、三七一	三、九一五
計	一〇〇、四八九	一一〇、三七〇	九、八八一

日本人は二百四五十人（但し官憲及其家族を除く）あり又我憲兵は新に增派されたるものを合して合計二百名なるが從來は東間島の內東部の十ヶ所に配置したるも增派の結果數ヶ所を增すに至れり又間島に於ける支那兵は約三千五百人位と思はる之れに對して日本兵は一人も備へ居らず韓人の巡查は四十名にして我憲兵二百名を以て彼れの武的行動に對抗し居ることとなるが併かも新聞紙に傳唱する如き危險の狀勢あらず尤も新興坪に於て先般一寸衝突したりと雖も深き原因のありしものに非ず元來間島は東間島、西間島の二つに別れ東間島を更に東西部に區別し居りて今日迄の我國が手を着け居る方面は主として東間島の內東部にして東間島の東部は千三十方里、西部は五百二十方里合計千五、六百方里なるが我國四國の面積千百五十一方里あるに比して十分の六强に居るの割合なり而して領土權の問題に付ては別に承知せざるも北京に於て國際上談判を爲し居る筈なるが若し國際上の問題を別とし普通民法上より勝敗の如何を決せんとして證據を提出するものとしたらば慥に勝利を得らるゝべし云々（京通報）

●慶尙北道の洪水

十四日午前一時より十六日午後三時に至る大降雨にて河水氾濫し十五日より大邱永川間、安東大邱間、東萊尙山間交通杜絶したるも十七日より開通し又永川慶州間の警備電話不通となりたるも應急修繕を加へ開通せしめたりと

●韓人の會社設立出願

新協約實施後韓人より會社設立を願出でたるものは無慮百數十件の多きに達せるも元來韓國には未だ會社法の規定なきを以て之が許可に就ては豫め其內容及事業の目論見計畫書を實地に調査したる上ならざるべからず故に實地に調査すれば驚くべし何等の定見なく唯だ漠然官の許可を受くれば一種の特權を獲得するものゝ如く思惟し之を以て第二者に對抗せんと欲するものなれば一として取るに足らず實に幼稚極まる計畫なれば全然許可を與へ難きものゝみなる由

●新設裁判所組織內容

確かなる筋より聞く所に依れば司法權委任に伴ふ新設裁判所は統監の管理に屬する筈にて裁判所の組織は區裁判所に於て單獨制を採用し地方裁判所及控訴院は各三人高等法院は大審院の職務を執行するべく五人の合議制にて區裁判所の上告審は高等法院に屬することに決定したる由なるが各裁判所の檢事局は統監の指揮監督を受くる筈也と

●地方の倉庫數ご現狀

農工銀行設立前地方農民の金融の爲め光武九年十月以來各地に政府より倉庫を設立し金融資金の一部を以て主として動產擔保の貸付をなしつゝありしが農銀の整備と共に其貸出しを停止し其後は專ら貸金を回收し之を以て各地に倉庫を增設し政府監督の下に農銀其他に無料貸付をなし來りしが目下該地方倉庫所在地は九箇所にして棟數十六建坪九〇一坪五なりと

●清津鏡城間道路改修

清津鏡城間の道路を單に軍事上のみならず經濟上及行政上に於ても之が改修工事は目下の急務なるに依り該經費を治道費中に編入して總額七萬五千圓を二ヶ年間に支出增額の筈にて既定治道費の中より支出すべく本年度に於ては四萬五千圓明年度に三万圓合計七万五千圓を既定治道費より繰合せ置きたる上にて後日總分を爲す筈なりと云ふ

●法權施行後適用法律

日本政府が法權執行後適用すべき法律に就ては屢次記すところありしが今次統監府に於て確定したる所を聞くに韓國人に對しては韓國法を以てし韓國人と韓國人にあらざる者との間に起りたる民事事件に就ては日本法規を適用し韓國人に對して裁判の執行を爲す時は韓國法律に據る筈なりと云ふ

●度量衡器販賣の擴張

度量衡の販賣は漸次好況なるも既定豫算にては一部の地方を限り販賣するに止まり全般に渉らざるを以て今回更に之れに要する費用を支出し必要の度量衡を益々製造し既定販賣所の外三十七ヶ所を增設し之れをして委託販賣を爲さしむる筈にて豫備金より一萬六千九百三十七圓を支出する筈なりと

●白銅貨の回收ご訓令

度支部次官は各財務監督局に向ひ左の趣旨の訓令を發する筈なりと

各地よりの報告に依れば舊白銅貨は尙多額の流通あるにも拘はらず回收額は近來著しく減少し一ヶ月の回收總額僅かに四万餘圓に過ぎざるに依り今日の趨勢を持續する時は到底期限內に交換を了する能はざるを以て此際一層各農工銀行及び金融組合を督勵し出張交換其他適當の方法を採らしむべし云々

●司法廳新設內議決定

豫て報導したる司法廳新設の內議は愈々之を採用することに決定したる由にて同廳は統監の管理に屬し司法監獄の事務を掌る筈なるが長官一人、參事五人、理事五人、通譯及錄事等の職員を以て組織すべしと云ふ

●地方行政ご官衙位置

從來韓國地方官衙は行政上の便宜を謀ると云ふよりもむしろ其の警衛を專一としたるものなれば僻遠の山間に偏在せるもの多きを以て內部に於ては將來之を移轉すべき計畫を立て明年度の豫算に計上する筈なるが其經費の大部分は地方費より支出すべしと

●京都府下ご韓海通漁

京都府にては韓海出漁獎勵の目的を以て丹後沿海に於ける水產組合をして漁船を製造せしめ之に對し新造一隻五百圓既成維持費一隻二百五十圓を三十六年度以降年々補助しつゝありしが郡も亦此趣旨に依り相當補助金を交付しつゝありといふ

●司法權の執行ご監獄

我が政府に於て司法權の執行後監獄事務に關して司法大臣の爲すべき職務は統監に屬する筈にて韓人に對する死刑執行は韓國の大祭祝日に刑の執行を爲さゞる等特に明記しありと云ふ

●內部の豫算編製材料

內部に於ては來年度の豫算編製材料の參考となるべきものに對して其の蒐集方に付各道に向け夫々通牒を發したりと云ふ

●一進會の記念式

一進會にては去る十八日午後一時より其の事務所に於て第五週年記念禮式を擧行したるが式開くるや會長李容九氏の挨拶に次で漢城府民會長兪吉濬氏及京城居留民團民長熊谷賴太郎氏の演說あり互に胸襟を開きて獻酬を爲し音樂隊の奏樂、妓生の酒間を周旋する等鄭重の饗應ありたる後餘興の催しあり頗る盛會なりしが當日の來賓は日韓紳士紳商等數百名也し

●各道豫算の下調

各道觀察使は各地方に於ける來年度豫算に付き目下下調中なるが完了の上は內部に提出する筈なりと

●郡衙移轉費支出

郡衙移轉の場合は豫め其費用を調査の上內部に請求せば來年度國費より支出することゝなるべしと

●地方費ご豫算案

本年三月發布されたる地方費法の豫算は本月中に發布する筈

●敍任辭令

永濱關稅總長の補任は八月十七日を以て左の如く發表されたり

關稅總長　永濱盛三

依願免本官

命關稅總長事務取扱　司稅局長　鈴木穆

●豆滿江流域の石炭

豆滿江流域なる咸鏡北道會寧、慶源、慶興等に於て產出せる石炭の狀況調査の爲め出張せる農商工部凌技手の談を聞くに該地方の石炭は三層より成り目下露出せるは其二期層なるべく我熱海炭に比し炭質稍劣り而して火力非常に乏しく先般試みに小蒸汽船に使用せしに普通炭より約二倍の炭量を要したるを以て從て二倍を積載せざるべからず且つ取扱に於ても非常の不便を感ずるも地方に於ける溫突燃料としては有望にして既に使用し居れるもあり鏡城、羅南等の炭坑も溫突用として冬期每日百噸內外を採掘し利益を見居れるを以ても知るべし且つ煤烟少なく他の石炭の如く特殊の構造を要せず使用し得るを以て該地方並に清國渾春等に供給すれば充分利益あるべしと信ず而して會寧炭は慶源慶興に比し稍勝り已に福岡縣の某々鑛業家に依りて採掘の計畫なるが慶源慶興に於ても其第三層は第二層に比し良質なるべく此方面に於ける採掘出願者は十名許りありと（日韓電通）

●一銀の引繼準備

第一銀行にては韓銀に對する引繼に關して目下夫れ〳〵準備中なるが何分にも時々刻々活動せる事務の事故愈々引繼當座に切迫せずんば確定する能はず尤も不動產に對しては既に調査完結し居れり而して引繼上最も困難なるは預金にして一々本人の承諾を求めざるべからず又貸出に於ても登記手續に於て兩者各々所屬法を異にするを以て頗る面倒なるべしと云ふ

●韓銀に對する一般人氣

近く設立さるべき中央銀行に對し一般商界の希望は云ふ迄もなく良好にして其云ふ處によれば同時本國に引上げらるべき第一銀行も京城及釜山の二支店は存置され從前の通り營業を繼續さるゝとのとなればつまり優勢なる一大金融機關を更に增加したる姿となり從つて第一銀行と共に直接に將た間接に金融界に貢獻さるゝこと多かるべし併し韓國銀行は固より普通民立銀行とは自から性質を異にすれば商界一般金融上の好響は寧ろ間接なるべし云々

●煉瓦製造所と產出額

度支部の直營に係る麻浦煉瓦製造所及永登浦分工場の現況を聞くに現在資本金は固定資本二十萬九千圓流通資本二萬五千圓にして最近二年間に於ける煉瓦、土管及び瓦の製造額は左の如し（單位個）

	煉瓦	土管	瓦
一九〇七年	二、四三六、五二〇	九、〇五四	一三一、九四八
一九〇八年	五、四六八、三二〇	四一、三六三	四〇七、八〇八

●港灣設備ご技師出張

韓國港灣の設備は刻下の務急なるは言ふ迄もなきことなるが岩城建築所技師は橫濱及び大牟田港の港灣設備調査の爲め約四週間の豫定にて昨十八日內地へ向け出發したり

●日韓瓦斯の漢江利用

同會社は漢江を利用して各器械の運搬、石炭の陸揚げを爲しつゝあるが更に今回龍山舊市街に沿ひたる朝日川を浚渫し少量の運搬及要水の利用を爲すべき計畫ありといふ

●清羅間の道路竣成期

既報清津羅南間の道路は速成工事なれば約二ヶ月にて完成せしむる筈にて十月末には全部工事を終るべしと

●慶北の水害ご農作物

慶尙北道延日郡兄上邊增水の爲め沿岸の被害慘狀を極め之が爲め農作物は平年より約三割の減收なりと云ふ

●日韓瓦斯の引繼終了

韓美電氣會社と日韓瓦斯會社との引繼は二三日前全部滯なく終了せりと

●存置すべき一銀支店

韓銀成立後第一銀行の存置すべき支店は京城、仁川、元山の三箇所なるべしと

●大久保司令官の視察

大久保軍司令官は足立高級副官を隨へ來月五日當地發北韓巡視の途に上るべし

●宇佐川東拓總裁東上

韓銀創立委員宇佐川一正氏は韓及白の韓人側委員と共に十九日上京せり

●一進會員の渡日

一進會評議員韓景源氏は杉山茂丸氏に對する顧問推選狀及同會改正規則草案等を携へ十九日渡日したり

●曾禰統監の病狀

曾禰統監の病氣は近來頓に快方に向ひ邸內の散步位には耐る由

●荻田書記官歸任

統監府書記官荻田悅三氏は歸朝中の處一昨夜歸任したりと

●篠田事務官入京

統監府間島派出所事務官の同氏は昨夜入京三日月館へ投宿せり

●露國武官の出發

西部露國正教會堂に滯在中のレーナムサル氏は十七日歸國す

●佐竹秘書官全快

過般來病氣引籠中なりし同秘書官は全快の上十九日より出勤す

●井上書記官歸京

渡日中なりし井上雅二氏は今二十日夕南大門驛着にて歸京の筈

●統監府會計課長

荻田統監府書記官は兒玉同府會計課長不在中其代理を命せらる

●ベッセルの遺族

ベッセルの遺族は南大門富來院に轉居せしが本月末歸國する筈

●倉富次官の出發

十九日朝出發したり

●兒玉書記官上京

昨日朝列車にて東上

●神宮奉敬會改稱

神宮敬義會と改む

●取消

本月十九日附貴社發行の京城新報に『專管居留地問題』と題して掲載したる記事は事實相違の廉有之候に付此全文を掲け御取消相成度此段申入候也

明治四十二年八月十九日　統監秘書官印　京城新報社御中

公人私人

▲曾田嘉伊智（青年會教師）十八日入京す
▲野呂德一（間島派出所屬）同三日月旅館
▲藤村源太郎（咸興裁判所檢事）同山本旅館
▲島田棋藏（滿韓鹽業株式會社員）同巴城館
▲鶴田政太（關東都督府技手）同上
▲谷口小二郎　十九日出發東上す

近事片々

▲統監　更迭後日尙は淺きが爲に何等の發展を見ざるは是非もなし併し前途甚氣遣る
▲聞く　統監には今尙ほ恙全く癒へずと大任を負ふて病床にある程苦痛はなからむ
▲斯る時に補佐の任にあるものに好個の人物を得たき心地ぞする現在に其人ありや
▲見渡す限り何れも鈍栗の背競にあらざるか多士濟々とはホンノ世人の御世辭のみ
▲石塚君を始め岡本內小宮其他の參與官連は何れも一騎當千然れども背適役に非ず
▲思ひ切て統監に進言し平生の抱負を實行する熱烈なる人物は實際一人も見受けず
▲統監政治の面目を一新するには是非此際緣僚の更迭を必要となす是ぞ先決問題也
▲警視廳內に總監非總監派の暗鬪ありと噂せらる果して事實ならば甚だ忌はしき事
▲今の時代は保護政治の初期なり今より邦人同志の軋轢等す可らすヨボに笑はるぞ
▲水產局は水產學校を設るの計畫ありと云ふ韓國人には此種の學校は最も必要とす
▲豆滿江岸に石炭坑あり品質劣等なるも普通燃料に適し吉林渾春地方に需用多しと
▲北韓開拓北滿との交通を開くに於て好箇の材料北韓鐵道布設の曉は一の良財源也
▲邦人に咸鏡海の明太魚漁を出願以て經營せんとする者ありと是れ甚だ喜ぶべき也
▲明太魚は韓國人の必需品其消費高も甚多し邦人の經營に移らば其漁獲高倍加せむ
▲日本は頃者災厄頻に續く然れども米作は昨年に比して豐かならんとは不幸中の幸
▲韓國亦平年作ならむ清國南部は不作の模樣なるも越て印度は近年稀の豐作なりと
▲東歐亦事起る例のクリート島問題に就て希士間の風雲急希臘は出兵の覺悟迄なす
▲露國此際此時ダーダネルス海峽通過問題を亦も提出せりと果して甘く行くべきか
▲精神に異狀なきかを疑はる竹楊閑話は亦も少々狂はれたか併し京城には巣鴨なし
▲貴婦人社會の墮落は實際看過す可らす苟も道義の念あるもの最早默す可らざる也

……が一昨十七日は東大門……る出にて昨十八日……同……りと

……發生の爲め農作物の被害不尠由は昨紙報導せしが其筋にては汎く管下に布達して驅除を勵行し居る由農商工部へ報告ありたり

……病氣のもの九名ありたりと

●配達出拂　午後六時四十分

●貴婦人の墮落（其二）

▲天下の大通督爾統監　▲京城日報の不心得　▲破倫……破德……の奬勵

▲おやゑの方　が副統監公式の園遊會へ秋田の妾たかねを招きたることは當時統監府部内にも大に物議を起したる次第なるが陰險立てすれば却て世の笑を大ならしめんと斯うりの人々は憤慨しながらも遂に其儘打捨られたるなり

▲妾同士　世に境遇を同ふするもの互に同情を持ちて交際も親密となるは自然の數なるがおやゑの方とたかねの方とは何方も同じれ部屋商賣の互に身の上に就て越方行末を語合ひ親身の姉妹の如く何一つ打明けて相談せずと云ふことなく互に力になり合ましようと堅く契りたる間柄なり

▲妾の利用　たかねの旦那は世に云ふ運動屋にて何がな權門に接近して奇利を博せんと思ひ居る矢先なる妾がおやゑの方と姉妹も啻ならぬ親密なる間柄なるを知りたるを以て之屈強と大和町の副統監邸に行かしめたや否やかねに音物を持たせては殆んど毎日の如く

▲妾の歡心　を買はしめ時によりては自分も同道して副統監邸に入込み御部屋樣の御機嫌取りに勉たり

▲屋樣　が花見の會を開かるれば自分もたかねも夫に加はり二日も三日も邸内に起臥して只管ら御部屋樣の御機嫌取りに勉たり

▲世間の噂　當時世間にては副統監邸に毎夜花見の會開かれ主人子爵が催主の如く傳へられたれども其は全くの誤報にして花の會主は實はれ部屋のれやゑの方にて相手は秋田の妾を筆頭に大抵は何かと彼とか入り開眼を有して婦人社會の品位を高めんとに常に奔走せらるゝ所謂貴婦人方なりしなり

▲妾の行狀　副統監樣子爵閣下が召の召命に接し五月十七日を以て京城を下り途に就かるゝやたかねは恰も籠中の鳥の自由の身となりて秋田の妾や貴婦人達を相手に花見許りにては興湖しとなし茲に鬼の留守に洗濯を爲さんものと密かに出入の某女に賴みて或夜某女と二人連れ暗に紛れて壽町は壽座當時開演中なりし田宮一座の壯劇見物にと出掛けたり

▲何人なるか　子供七八持つとも女に氣は許すなさの古諺我を欺かず、さてもれやゑの方は素と曾禰家の仲働の身にして何の間違ひか子爵閣下のれ情を受け子爵夫人の寬大なるに甘んじて今子爵に仕ふる身にてありながら其夜は已に約束ありしものと見えて年若き帽子眼深に冠りたる一人の男と同席しいとも睦しげに又樂しげに低聲にて物語りを續け舞臺の方は少しも顧みざりし斯て後れやゑの方は芝居打出し前に彼の若き男と何か囁き合ひて劇場を出られたるが其の行先は何處なりしかれ部屋樣の命の洗濯とは實にこんなものなり

●水泥棒の亂暴　龍山本町三丁目氷行商人山本義八（二三）は十八日午後五時頃十五間道路の某韓人家屋に差し蒐りたる際水が飲みたくなりしか商賣ものゝ氷は他人に賣れば温くても並の水にて我慢すべしと其の韓人家屋に至り水を一杯飲まして呉れぬかと云ひしにアンデエーと拒まれたるに腹を立て素直に呉れねば腕づくで飲んで行くと無法にも奥庭に闖入し四斗樽に湛へられたる清水を强かに呷り付けたる上汚れたる手を其の儘に樽の中に浸けてジャブ〱と行らかしたれば可程被保護の韓人なりとて默まつては居ず一言二言云ひ出でたるにぞ義八は何生意氣なと拳を固めて散々に毆打したるより附近の日本人達が見るに見兼ね夫れと訴へ出でたるより警官出張直ちに警察署へ引致一夜留置されたる上十九日朝に至り放還せられたる頃は氷は溶けて終つて殘るは濕つた鋸屑許りで之を水と飲んで置くのだつけ、とは氣の付き方が遲い〱

●圖々しき呑助　當地若草町車修繕業池田松次郎（三二）及大野大吉（二六）は一昨十八日午後十時頃旭町一丁目第一三三番戸料理店大福樓事久保とら方に登樓し鱈腹飲んだ末いざ四圓四十六錢の勘定となり兩人共無一文ゴタ〱の末翌午前一時迄仕拂猶豫を申込み曾附近の辻車にて何れへか立去り朝に至るも何の音沙汰もなければ大福樓より搜索方其筋へ願ひ出でたるに前記兩名は同家を出ると其儘新町南山樓に押し上り同樓八圓二十九錢の遊興費を請求せられしに實は無一文なればとて池田を殘し置き大野は金策に出掛けし儘歸り來らずとは呑氣な奴等と云ふべし

●强姦されて自殺　仁川警察署に一昨日午後二時頃年老ひたる一人の韓女出頭して涙を流がしながらに訴へて曰く妾は最愛の娘と素砂附近に居住するものなるが昨夜一人の韓人家内に闖入し來り逃け迷ふ娘を捕へ無法にも强姦し何れにか姿を匿したるが娘はかゝる恥辱を受けては生くるも詮なしと思ひ毒を仰ぎて目下悶絶し居れりと訴へ右の男に途中仁川にて遭ひたりとのことに直ぐ韓刑事を同行せしめ其眞僞を確めんと出張したりと

●都々逸天狗　魚遊

藝妓「貴郎如何遊ばしたの、开麽な顏をさつてさ、恰で鳩が豆銃砲を喰つた樣に眼ばかりパチ〱させてよ、何を考へて居らつしやるですか」れ客「ナニ今度京城日報社で募集の懸賞都々逸に投書して一等賞を占めれ前に三ヶ月分無代で新聞を讀せて遣ろうと思ふてさ」藝妓「ソー有難い事ねッシテ何んなのか出來ましたか」れ客「出來たとも古今無類の傑作、而も課題の砧と虫を一とつに讀込んだ腕前は豪からう、マア謹んで拜聽し玉へ斯う謂ふのだ、

虫と砧の都々逸投して
無代で新聞三月分

●只飲男の太平樂　仁川花町派出所に一昨日午後六時頃無錢遊興者ありと訴へ出でたれば警官出張取調べたるに右は長崎縣生れ漁夫戸田新藏（四十）なるものにして一昨日正午十二時頃登樓し午後六時まで遊興しいざ勘定となるや懷中には一文の持合せもなき有樣なるに新藏は平氣な面をして僞醉狂をなし居るより訴へたる次第と判明したるが三圓五十錢の勘定を支拂ふ目的なきより本署に引致せられたり

●女郎衆の痛事　新町皆春樓の君香小楳の二拍子は去る十七日の朝四時五十分頃別れの辛らさに遂ひ其筋へは内所で大和町三丁目邊迄れ見送りしたのが知れて科料一圓宛同樓の花絹は去る十一日午後七時三十分頃之れも無屆にて南山町一丁目へ出掛けしが知れて同じく一圓の科料昨今の不景氣に煙草錢にさへピー〱して居るに一圓とはチト辛ふまんわ

●日日社の演藝會　朝鮮日日新聞仁川支社の主催に係る大阪大火慈善演劇會は新派田宮貞雄一座に依つて昨日より五日間の豫定にて同地歌舞伎座に開會せしが非常に好景氣なりと

●糞を放つて撲らる　昨十九日午前六時頃一人の韓人が私は南署十里中里居住趙興山（三九）と申すものなるが只今永樂町一丁目農商工部建築場にて日本人より頭部を毆打されましたと訴へ出でたるに付警官出張取調べたる處前記趙は同場内に放糞したるを南大門通り三丁目請負業岸本末美（三二）が見附け不都合なりとて毆打せしものと知れ說諭せられて引下る

●スリチビで只飲み　岡山縣奥郡牛文村七一番地當時龍山十五間道路二丁目田川鐵工場職工藤原猜藏（四六）及和歌山縣奥上郡利木田村二七〇番地當時龍山元町四丁目裏居住鍛冶職井上清太郎（三七）の兩名は十八日午後十一時四十分頃南部小公洞酒商劉召史方に至り六十錢餘の酒を飲みしも無一文にて之を拂はず劉より訴へらる

●下女と而して瓜　龍山桃山町日曜樓の下女平川みつ（三二）は十八日午前十一時頃支那人の野菜賣と言葉の行き違ひより喧嘩を初め姫御前の身のあられもなく支那人の瓜數個を踏み潰したるにぞ支那人敢て讓歩せず警察署へ馳け込んで交渉顛末を發表したるより相當代價を辨償せしめらる

●拾得二件　仁川本町三丁目居住高祖勇なるもの一昨日午後十時頃本町秋田商店角にて二十三圓記入の十八銀行の貯金通帳寄山淸六記名のもの一通拾得し直に仁川署に屆出づ又本町三丁目木村傳三郎は一昨日午前六時本町三丁目にて金六圓を拾得屆出づ

演藝

▲歌舞伎座　彰義隊一座第五回目本日の替り狂言は「善惡兩輪車」全七場にして重なる役割左の如し

仲居れ六（西井）ピヤホール女中雪江（本田）母親れ雪、支那人慶重（桂木）慶造妹れ梅（河野）太田鐵造（角村）娼妓政鶴、下女れ鍋（玉川）代言慾野、近所の女（中村）警部松野明（大和）辨護士若月憲一（松村）附け馬儀一（小谷）ピヤホール女中すゞね（小神）新聞十一（天草）若月書生牛淵寅夫（愛澤）鹽田貞二郎（三島）刑事花村進、近所の者芳造（美崎）町田慶造（篠崎）錦織誠二郎（北村）一寸八（有村）鹽田常子（木下）

▲生きて居る根炭▼

是は一口噺じやない實際に有た事、此程或官舍の奥さんが電話で御出入の炭屋へ根炭の餘り大きくない所を一俵持て來てれ呉れと注文したので炭屋の主人は早速其の品を持て行たところ、門口に遊んで居た其家の子供が「叔父さん先刻れ母さんが電話で言ふた鼠は何處へ持て來たの」炭屋「ハイ此處に持參致しました」子供「ソンナ物ぢやア無くつてよ、坊は生てる小さい鼠が欲しいのよ」

◀平民文庫▶

▲韓國に在る日本青年は一つも着實な考へを持つて居るものはない實に慨嘆の至りだは、の字君なぞは別だらうが全く以て情けないよ（への字）▲今年位ゐ孕み女の多い年はない樣だ見る女〱皆孕んでる第一吾儂の妹迄が孕んでる（東江）▲孕ませた人は判つてるのですか町内氏子中は恐れるよ（小僧）▲彰義隊一座で是非オセロを演して貰ひたい、役割は愛澤の伊屋剛三、篠崎の勝少佐、角村の室中將、西井のれ宮、河野の鞆音、松村の門田、桂木の櫓取、美崎の布良坏最も妙ならん（劇狂）▲支那町の月の家と云ふ料理店程朝の掃除に念を入れる家も稀れだ家構へは振はないが感心なことだ（通行人）▲度支部の門に揭出せられた電話番號に同一番號が二つある即ち五百三十五番が夫れだ間違ひぢやごわせんか（車夫）▲龍山停車場の圖を表したる繪葉書にて申來されたる仁よ龍山の相撲につき料理店云々の投書本社に未着なり通告す（係）▲十六日の夕刻太平町の八重吹と吉田屋の白首が四五人連れにて入浴の歸りを同町二葉の賣春婦が三四人して表二階の欄干の所に待ち受け下を通る彼等に向ひ口を極め惡言を吐き掛けたる所此方も猿者默つては居ず負けずに云ひ返へしての醜聲怒罵互に淫賣呼はゝりを爲し一時は中々舌戰烈しく上と下と咆哮する態容は實に近來の見ものであつた恰も彼等は眼糞の醜きを鼻糞が嘲笑ふに等し咄濟度し難き餓鬼奴等哉（太平洞人）▲電車の横つ腹にはまだ韓美電氣會社とある（阿禮亭宵の蚊）▲丸京では又例の手で正札より三割引きだとサ、吳服と云ふものは太した儲けがあると見ゑる、三割引いてさへ未だ飯を食ふだけの利益は有るのだらう、若し利益がなければ生て居られる道理がない（手古奈）▲へへへれ素人方にはれ判りになりますまい其所が商賣？でさ（小僧）

●天氣豫報（自十九日午後六時至二十日午後六時）
晴れ但驟雨
十八日（華氏）　最高溫度　八二、八　最低溫度　七〇、三

各種洗濯石鹸
専門製造販賣
用途
一、陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道湯屋、理髪、諸工業用
京城旭町二丁目
（電話九七三番）
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●英文代書　通譯雇度　本町一の七五中村
●被雇度　年廿九市内に確實保證人有韓語に通す不問職業被雇たし　氏名在社（四一三）
●韓語通譯　會社銀行又は商店を問はす韓語通譯に被雇たし　氏名在社（四一二）
●望家庭教師　某美術學校卒業生廿三歳市内相當の家に被雇たし　氏名在社（四一四）
●下女入用　年齢三十歳より四十歳迄にして身体壯健なる者至急入用但し月給八圓　氏名在社（四一七）
●賣藥行商人數名募集　希望者は本人直接來談あれ　明治町三の一五七　水田藥房
●被雇たし　年十八身体强健高等小學校卒業新聞又は牛乳配達に雇はれたし　旭町一の二八二　中村

物件部

●賣地　南大門より停車場に至る右側表通六十坪の賣地あり　氏名在社（四二〇）
●貸家　若草町一にて温突二間續一間疊敷二間押込炊事場玄關付にて井戸の設置あり家賃十二圓若草町一の一二九矢島（四一九）
●貸家　南山町二丁目辻屋花園附近至極眺めよき新築家屋電話附の儘家賃三十圓位希望者は下名へ御申込あれ　本町二丁目辻屋
本町七丁目通にて飲食店造作付のまゝ至急格安に讓渡したし　姓名在社（四二三）

廣告

神經腦病頭痛
全治最良藥
島村醫學博士
有効証明
健腦丸
恐るべき腦充血を…
本舖　丹平商會

醫學博士島村先生有効証明
全國各藥店取次販賣す
●いかなるはいたでもいまなをるはぐすり
今治水
藥價　小瓶七戔　中瓶十五戔　大瓶三十戔
元祖　大阪心齋橋　丹平商會本店
本舖　東京銀座町　丹平商會支店

▲清潔の下宿▼
客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切さを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戸横小路（元花屋跡）
▲懇切の下宿▼
かめ屋

眼科專門
京城本町一丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院
（電話三一三）
前漢城病院眼科部長
醫學得業士　江頭富雄

入院隨意
諸般の設備を改善して一般診療に從事す
内科小兒科部長　院長　安藤一郎
皮膚病外科部長　醫學士　鶴田善重
花柳病
産科婦人科部長　醫學士　山添喜代藏
耳鼻咽喉科部長　石田誠
診療時間毎日自八時至後二時（但日曜大祭日休業）
京城明治町一丁目
電話十二番
漢城病院

軍旅必携
發賣　大日本　守田寶丹
MORITA'S HŌTAN.
起死回生　寶丹
官許本家　守田治兵衛
明治十年以來　軍隊用之命也
MORITA JIHEI.

代理店
新井藥房本店　京城南大門通三丁目（九千六百八十四番）
新井藥房第一分店　京城本町三丁目（電話四七八番）
新井藥房第二分店　京城南大門外

○○○○○○○○○○
熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）
辯護士　岡田榮
京城旭町一丁目六十七番戸
（電話三九八番）

大阪
荒物世帶道具一切
製白絞油和洋蠟燭
和傘岐阜提灯魚釣道具
卸小賣
地方在住の各位に注御申越あらば次第代金引替證付又は代金引替小包郵便を以て御送付申上候商弊店營業品目錄御入用の御方は御通知あらば次第送呈申上候
荒物世帶道具
各國諸油米穀
銘酒澤龜　アサヒ　サッポロ　麥酒
並に買次業
京城本町六丁目
西崎嘉七本店
（電話長二一〇電略（ニカ又はニ））
振替貯金口座東京（九四一七番）

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す弊場夙に茲に留意し好良の食料を給す
京城本町五丁目（電四七番）
販賣元　仁川松尾支店
京城東四軒町（電七五番）
搾取所　松尾牧場
●弊場搾取の牛乳を愛飲せらるゝ諸君は…風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし

銘
仁川港
釀造元　大森酒場
雪乃松
盛乃花
酒

韓國一手發賣元
永島商行
京城日の出町一丁目
（電話架設中）

梅毒專門
皮膚病一般
痔注射療法（不要入院）
京城南大門朝市場櫻家旅館内
神戸資生院長
出張診察所
電話三百十二番
院長府立大阪病院專攻
元兵庫縣立福原驅梅病院醫長
醫學得業士　蘆田耕平
○資力乏しき病者には割引又は施療す

南門湯横に病院新築中に付き本月末移轉開院す

南山の風景を目前に眺め
浴場の設備あり
待合　貸席　入船
京城南山町一丁目
電話千百三十五番

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
本店　京城本町三丁目（電話四〇番）
出張所　同南大門驛構内（電話七三二番）
伊藤組

東京產婆學校卒業
產婆　莊野キヌ
龍山十五間道路
鐵道官舍十六號一

消毒　殺菌
元祖
牛乳・平山牧場
京城大和町壹丁目
電話一三三

株式會社第一銀行韓國總支店
電話番號
長第一一番　國庫部、發行部、營業課、當直用
第三一番　國庫部、發行部、營業課用
第三一番　支配人、調査部、文書課用
第六二一番　用度係、分折所用
第六三二番　臨時建築部用

本店　東京市日本橋區兜町
内地支店　大阪、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關
出張所　京都、伏見、東京新大阪町
韓國支店　兵庫、大阪西區、釜山、木浦、群山、平壤
出張所　仁川、鎮南浦、馬山、鏡城、開城、元山、城津、咸興
清國出張所　大連、安東縣
右の外内外各地重要なる場所には爲替取引先あり
營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

明治廿年七月創立
東京海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代辨店　本町四山口呉服店　電話九番
事務所　京城本町二の三　電話一〇六〇番

營業科目
活版活字鑄造
石版銅版
木版彫刻
コロタイプ版
寫眞版
蠟版(?)
製本裝釘
今般日韓図書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ…
日韓印刷株式會社
本社　京城明治町三丁目　電話（三二三番）
東京出張所　東京京橋區南鍋町一ノ十　電話新橋（三九六二番）

入院隨意
南山町二丁目
松岡醫院
電話六七五番
各科診療

待合
…

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金參百萬圓
積立及繰越金九拾萬圓
京城南大門通
株式會社十八銀行京城支店
（電話四二〇）
本店　長崎市築町
支店出張所　京城、龍山、仁川、釜山、元山、木浦、群山、羅州、大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐
韓國日本
其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金
一口壹錢以上何程にても御預り申候
（利息日歩壹錢四厘）
長崎貯蓄銀行代理店
（十八銀行京城支店）

日本郵船株式會社
瀛船出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通　電話十番
郡回漕店
●京城出帆　大連、太沽、牛莊行　八月二十九日午後三時頃
●大連、大沽、牛莊行　九月九日正午時頃
●大連、大沽、牛莊行　月日午前四時
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行　八月廿六日正午
立神丸　月日午後出
御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候…約五十分前ニ解纜ノ事

●廣告料　一行一回五十錢…
●購讀料　一ヶ月…
發行兼編輯人　高木久馬
印刷人　松久神一郎
發行所　京城新報社
京城西小門通　電話六三番